

2021-07 経営協議会議事概要

日時 令和4年3月18日（金）14：15～15：35

場所 地域イノベーションホール

【一部の構成員等（※を付した者）はオンラインで出席】

出席者 伊藤学長（議長）

志田，末松，高木，二井，※廣田，※眞崎，丸山，向井，横山，渡辺 各学外委員
鶴原，緒方，尾西，今西，西岡，伊佐地，木下 各学内委員

欠席者 田中 学内委員

陪席者 服部，小川 各監事

◆議事概要の確認

2021-6（1月21日開催）の議事概要（案）について，了承された。

I 審議事項

1. 令和4年度学内予算配分案について

尾西理事から，「資料：審-1」に基づき，令和4年度の学内予算配分案について，第4期中期目標期間の初年度であることを踏まえ，三重大学の教育・研究活動，附属病院の診療活動が社会的インパクト，特に地域社会により良いインパクトを与えることを目標とし，人件費管理等の抜本的な見直しをしているとの説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

<主な意見>

- 運営費交付金が削減されていくなかで，外部資金をいかに調達していくかが，非常に大きな課題だと思われるが，令和3年度と令和4年度の外部資金額はほぼ同額になっている。中長期的なスパンで見た時，外部資金はどのように変化したか，また外部資金に含まれる寄附金や共同研究や国の機関からの補助金等について，今後の動向や見通しはどのように考えているか。
- 外部資金について，第2期と比較して，第3期は期間中の平均額を8%アップさせる目標を掲げていたが，第3期終了時点で7.5～6%と目標に若干届いていない。最近の動向では国からの大型予算は比較的堅調だが，ここ2年ほど共同研究等は新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあり減少傾向にあり，今後も第3期実績の数字を推移すると考えられる。資料の予算案には記載されていないが，三重大学が申請した「地域密着型DX人材育成事業」に補正予算がついたこともあり，国からの大型予算の獲得を目指して企画を立てていきたい。

2. 三重大学事業者提案施設等事業の優先交渉権者について

尾西理事から，「資料：審-2」に基づき，提案応募事業者によるプレゼンの審査結果と優先交渉権者の提案内容についての説明があり，審議の結果，原案どおり承認された。

3. 人事労務に関する規程等の改正について

尾西理事から、「資料：審－3」に基づき、令和4年度からの給与に関する規程について、人事院勧告に伴う改正内容等、今後の過程の説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

4. 余裕金の運用にかかる文部科学大臣の認定基準の申請について

木下事務局長から、「資料：審－4」に基づき、余裕金の運用について、これまで以上に柔軟かつ適切な運用収益確保に向けた運用ができる体制を整備するため、認定基準の第2区分により文部科学大臣へ申請を行うことの説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

<主な意見>

- 運用の幅が広がるということは、リスクも大きくなると思われるが、例えばどれくらいの資金運用の規模になるのか、また具体的に余裕金はどのような資金が該当するのか。
→ リスクのある商品の運用は寄附金に限られており、運営費交付金は定期預金等の安全な資金運用を行うことになっている。現在、寄附金で資金運用している金額は25億円であり、今後もその規模で運用予定である。
- 運用にあたって、ガイドラインはあるのか。
→ 余裕金の運用に係る文部科学大臣の認定基準の中に、資金運用の委員会を設けて実務経験のある専門家と大学職員がポートフォリオを組んでいくこと、資金運用を担当する常勤役員を配置することなどが定められており、また大学としても資金運用管理規程を策定し、そのなかで資金運用をしていく仕組みになっている。
- 運用の対象に格付けについての記載があるが、会社自体に付与されている格付けと流動化債権に付与されている格付けがあり、流動化債権自体の格付けについては注意深く検討するのがよい。

5. 経営協議会規程の改正について

木下事務局長から、「資料：審－5，参考」に基づき、国立大学法人法の改正に伴い、三重大学経営協議会規程の該当箇所を改正することの説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

6. その他

なし

II 報告事項

1. 令和4年度からの新教育研究組織について

伊藤学長から、「資料：報－1」に基づき、三重県をはじめとする地域との共創活動を推進していく中心的な組織として「みえの未来図共創機構」を立ち上げることについての報告があった。

<主な意見>

- 分野別プラットフォームとあるが、個別にやる必要性がある場面とない場面がある。例えば、災害時の地域医療と防災、県内就職率に関しての教育と産業界は大きく関連してくるので、必ずしも分野個別に拘る必要はないのではないか。
- 新しい組織について、実際に地域社会と結びつきながら、三重大学が具体的にどのようなことを行っているかが、目に見える形になるのが望ましい。

2. 令和4年度執行部体制について

伊藤学長から、「資料：報－2」に基づき、令和3年度は1名であった「副理事」に、医学部附属病院長と事務局長を加えて3名体制とする等、令和4年度執行部体制について報告があった。

3. 第4期中期目標・中期計画の提出等について

尾西理事から、「資料：報－3」に基づき、第4期中期目標・中期計画を文部科学省へ提出したとの報告があった。

4. 給与改定の方針について

尾西理事から、「資料：報－4」に基づき、役員に係る期末特別手当の支給割合について、令和4年1月13日開催の役員会で0.15月分の引き下げとしていたが、人事院勧告に沿う形で0.1月分の引き下げに変更したとの報告があった。

5. 臨床麻酔部不祥事再発防止策・類似事案未然防止策並びに附属病院新型コロナ対応に関する監査報告について

服部監事から、「資料：報－5」に基づき、部局毎に弁護士を講師にした研修会、日常業務の中で当事者たちのコンプライアンス意識の定着を促す工夫など実効性のある再発防止の取り組み等の報告があった。

<主な意見>

- 他の業界でも、必要な時間を軽視し、不正な検査を行ったため、逮捕者がでる事件があった。監査体制を強化し、今回の臨床麻酔部の不祥事を糧にして、一人ひとりのコンプライアンス意識を高めるとともに、三重大学で人間性を教育してもらいたい。

6. 正門周辺整備、第一食堂改築について

施設部長から、「資料：報-6」に基づき、正門周辺の整備計画及び前回の経営協議会での意見を踏まえ、第一食堂は環境配慮設計を行い、基準第一次エネルギーを50%以上削減する計画であること等の報告があった。

<主な意見>

- 基準第一次エネルギーが50%以上削減について、整備だけに終わらず、削減のノウハウを蓄積し、自家発電の可能性も含めて、ビジネスにならないか一考してほしい。
- 正門擁壁のデザインに伊勢型紙を使用しており、地域資源活用という面で良いと思う。
- 基準第一次エネルギーを50%削減することは素晴らしく、もう少し具体的に推計値を出すことが可能であれば、「これから努力してやります」ではなく、「これだけやりました」と学外に向けて発信、売り込んでいく機会ではないか。

7. その他

(1) 次回開催について

6月3日(金) 13:30~

以上